

東京大学
教養学部

オルガン演奏会

入場無料
(先着500名)

THE UNIVERSITY OF TOKYO
KOMABA
MORI ORGAN

【主催】東京大学大学院総合文化研究科・教養学部オルガン委員会
【協賛】東大駒場友の会
<https://organ.c.u-tokyo.ac.jp/> Tel.03-5454-6139(駒場博物館)

第148回 レクチャーコンサートと演奏会 Lecture and Concert

2026年 **10/1**(木) ^{① 開場 9:40} **10:00** / ^{② 開場 18:40} **19:00**

東京大学教養学部 900番教室(講堂)

①Oct.1 10:00am; ②Oct.1 7:00pm Auditorium No.900, Komaba Campus, The University of Tokyo

講演・オルガン: **グレゴリー・ダゴスティノ**

Lecture and Organ: Gregory D'Agostino

① 10:00 レクチャーコンサート Lecture

『オルガン演奏の難点克服』(英語・通訳あり)

Overcoming the Challenges of Organ Performance (In English, with translation)

② 19:00 演奏会 Concert

J. S. バッハ Johann Sebastian Bach (1685-1750)

トッカータとフーガ ニ短調 Toccata und Fuge d-Moll, BWV 565

「目覚めよ、と呼ぶ声あり」(シュブラー・コラール集より) „Wachet auf, ruft uns die Stimme“, BWV 645 (aus den Schübler-Chorälen)

L・J・A・ルフェビュール＝ヴェリ Louis James Alfred Lefébure-Wély (1817-1869)

演奏会用ボレロ Boléro de concert, op.166

R・パーヴィス Richard Purvis (1913-1994)

イングランド民謡「グリーンスリーブス」 Greensleeves (English folksong)

D・バック Dudley Buck (1839-1909)

フェスティヴァル前奏曲 Festival Prelude

G・ボヴェ Guy Bovet (* 1942)

サラマンカ Salamanca

G・ゲラルデスキ Giuseppe Gherardeschi (1759-1815)

軍楽隊が行進曲を演奏する様式によるオルガンソナタ Sonata per organo a guisa di banda militare che suona una marcia

F・リスト Franz Liszt (1811-1886)

「慰め」変ニ長調 Consolation en ré bémol majeur

BACHによる幻想曲とフーガ Fantasie und Fuge über das Thema BACH

第149回 演奏会 Concert

2026年 **11/6**(金) **19:00** 開場 18:40

東京大学教養学部 900番教室(講堂)

November 6 7:00pm; Auditorium No.900, Komaba Campus, The University of Tokyo

オルガン: **ヴィッレ・ウルポネン** Organ: Ville Urponen

D・ブクステフーデ Dieterich Buxtehude (1637-1707)

前奏曲嬰ヘ短調 Praeludium in fis-Moll, BuxWV 146

C・Ph・E・バッハ Carl Philipp Emanuel Bach (1714-1788)

《スペインのフォリア》による12の変奏曲 ニ短調 12 Variationen über „Les Folies d'Espagne“ d-Moll

T・クーシスト Taneli Kuusisto (1905-1988)

讃美歌《オリーブの緑の枝》による幻想曲 作品55/1 Fantasia hymnistä Ramus virens olivarum, op. 55 no.1

J=Ph・ラモー Jean-Philippe Rameau (1683-1764)

鳥のさえずり Le Rappel des Oiseaux

L=C・ダカン Louis-Claude Daquin (1694-1772)

カッコウ Le Coucou

W・A・モーツァルト Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791)

小型自動オルガンのためのアンダンテヘ長調 Andante für eine Walze in eine kleine Orgel F-Dur, KV 616

J・S・バッハ Johann Sebastian Bach (1685-1750)

「いざ来ませ、異邦人の救い主よ」(ライプツィヒ・コラール集より)

„Nun komm, der Heiden Heiland“, BWV 659 (Aus den Leipziger Chorälen)

トッカータとフーガ ニ短調 Toccata und Fuge d-Moll, BWV 565

東京大学教養学部
第148回・149回

オルガン演奏会



講演・オルガン: グレゴリー・ダゴスティーノ Gregory D'Agostino

オルガニストのグレゴリー・ダゴスティーノは、国際的な演奏活動に加え、教育者や教会音楽家としても高い評価を得ている。これまでに、パリのノートルダム大聖堂、東京のサントリーホール、北京の国家大劇院、ロンドンのセント・ポール大聖堂、ニューヨークのリンカーン・センターなど、世界有数のコンサートホールや大聖堂で演奏を行い、その活動の舞台は3大陸に及ぶ。ジュリアード音楽院やマネス音楽院(ニューヨーク大学)で教鞭をとったほか、現在はニューヨークのセント・アン・アンド・ホーリー・トリニティ教会でオルガニスト兼音楽監督を務め、米国オルガニスト協会(AGO)ブルックリン支部の支部長も務める。

音楽評論家や聴衆からは、感性を揺さぶる豊かな表現力が絶賛されており、その演奏は『アメリカン・オルガニスト』誌で「見事なまでに制御された熱狂」と評された。『ニューヨーク・タイムズ』紙は、彼の演奏について「巧みかつ力強く、音楽の真髄に迫るものであり、優美で歌うような旋律から、力強く卓越した技巧を要するパッセージまでを見事に表現した」と記し、『ワシントン・ポスト』紙は、ブーランクのオルガン協奏曲の演奏に対し、「必要な場面では圧倒的な力を発揮し、同時に音楽が持つ暗く幻想的な雰囲気への繊細な感性も示した」と称賛した。特にリストやフランス・ロマン派の作品の演奏で定評があるほか、20世紀音楽の積極的にプログラムに取り入れることでも知られている。リサイタルでは、ジャズやオーケストラの曲を自身でオルガン用に編曲して取り上げることもしばしばある。

多才なアーティストである彼は、数多くのCDを録音しているほか、アトランティック・レコードのラップやフォーク音楽のミュージックビデオに出演したり、映像作家マシュー・バーニーの高く評価された映像作品シリーズ『クレマスター・サイクル』においてオルガニスト兼指揮者としてコラボレーションを行ったりするなど、幅広い活動を展開している。

www.GregoryDAgostino.com

オルガン: ヴィッレ・ウルポネン Ville Urponen

ヴィッレ・ウルポネンはフィンランドを代表するオルガニストのひとりで、シベリウス音楽院オルガン科とピアノ科を卒業後、アムステルダム・スウェーリンク音楽院でJ・v・オールトメルセンに師事、1996年シベリウス音楽院ソロ科大学院、2009年博士課程を修了。

これまでにフィンランドを中心にヨーロッパの多くの国々はじめ、日本、韓国、中国、ロシアでも演奏。各地の主要な音楽祭にソリストとして招かれるほか、室内楽、またフィンランドで著名な器楽、声楽ソリスト、合唱団との共演も多く、伴奏者としても定評がある。

多数のCDソロアルバムを発売、いずれも世界各地で高い評価を得ている。ソロアルバムの他に、アンサンブル、またオーケストラとのCDアルバムも多数発売されている。

フィンランド国営放送には定期的に、またヨーロッパ各国のテレビやラジオにも出演。レパートリーはバロックから現代作品まで幅広く、フィンランドの作曲家の作品も多く演奏している。2012年にはヘルシンキでバッハの全曲演奏も成し遂げた。2020年には、ライブチヒの聖トマス教会の「バッハオルガン」を記念する2つの演奏会に出演。演奏家であると同時にフィンランドのオルガンに関する文献など執筆活動も展開し、欧州はじめロシア、韓国、中国でマスタークラスにも招かれる。

現在、シベリウス音楽院で教鞭をとり後進の指導にあたり、トゥルク・オルガン音楽祭の音楽監督、2002年から2009年には北欧で最も由緒あるオルガニスト協会「オルガヌム」の会長、これまでに欧州数か所での国際オルガンコンクール、昨年はフローニンゲンで開催されたマルティニ・国際オルガンコンクールの審査員も務めた。ヘルシンキ音楽センターに完成したコンサートホールのオルガンメンバーでもあり、昨年1月のお披露目演奏会でオリヴィエ・ラトリー、トマス・トロッターなどと共に演奏。

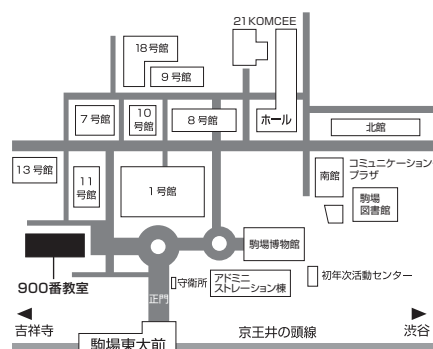
www.villeurponen.com

2026 10/1thu. 10:00/19:00

2026 11/6fri. 19:00

東京大学教養学部 900番教室(講堂)

〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1
(京王井の頭線 駒場東大前駅下車)



駒場キャンパスの音楽活動について

1977年に、森泰吉郎氏(森ビル株式会社初代社長)のご寄贈によって建てられた900番教室(講堂)にパイプオルガンが設置されました。以来、音楽を愛する教職員によるオルガン委員会が中心となって定期的に演奏会が開催され、学生はもとより広く市民の方々にも愛されています。また、2006年秋には、スタインウェイのフルコンサート・グランドピアノが駒場コミュニケーションプラザ北館2階の音楽実習室に設置されました。音楽実習室では2007年よりオーディションによって選抜された学生による学生選抜コンサートが開催されるなど、駒場キャンパスの音楽活動の軸となっています。こうした多彩な駒場の音楽活動は「駒場音楽振興基金(東大駒場友の会)からの補助によって支えられています。皆様からのご寄付をお寄せくださいますようお願いいたします。

東京大学大学院総合文化研究科・教養学部

〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1

オルガン委員会 <https://organ.c.u-tokyo.ac.jp/>

ピアノ委員会 <https://piano.c.u-tokyo.ac.jp/>

Tel. 03-5454-6139

(駒場博物館)

Tel. 03-3467-3536

(東大駒場友の会)

